一般財源

事業費計(A)

千円

千円

0

0

0 0

0

1,188

1,200

真岡市行政評価シ	,フテ <i>l</i> ,														
具両巾行政評価ン 評価対象年度		和2 年度		事	务事	業マネージメ	ントシート			作成	:日	令和3 年 0	14 月 15	5 日	
事務事業名	特別支援に係る専門家派遣事業						担当		1	建康福祉部	保育課	保育所			
政策名	02 「笑顔づくり」~安心と元気アップ!~						□ 総重(総合計画重点事業) □ 総新(総合計画新規事業)								
施策名	1	子育て支援	の充実	□ 戦拡(総合戦略拡充事業) □ 戦新(総合戦略新規事業)											
関連個別計画	真岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略						□単年度のみ								
法令根拠							事業期間	□ 毎年度実施(開始年度 令和2 年度~)							
予算科目	1	1.一般会計 3.民生費 2児童福祉費 4保育所						[期間限定初	复数年度(年	⋿度~	年度	ŧ)	
事業概要		面接等を実施。 育所に月1回、	年12回、合計で48	3 回臨床心理士	を派遣。	o									
1. 現状把握の	部 (1)	事務事業の	目的と指標												
① 手段(主な活動)				④活動	動指標(事務事業の活動量									
2年度実績					 .	名称		単位	29 年度(実績)	30 年度(実績)	31 年度(実績)	2 年度(実績)	3 年度(見込)	
臨床心理士を公立保育所に派遣し、支援を要する児童の行動観察、保育 士への助言・指導及び必要に応じて保護者面接を実施。 4保育所に月1回、年12回、合計48回 臨床心理士を派遣。 午前中、児童の行動観察					ア	臨床心理士派遣		回	-	-	-	48		48	
午後、保健師への助言・指導及び必要に応じて保護者面接を実施。 全体研修会を1回実施。 3年度計画 2年度同様に臨床心理士からの指導内容を適切に保育業務に活用していく。					1										
					ゥ										
					ェ										
					才										

① 手段(主な活動)					④活動指標(事務事業の活動量を表す指標)の推移								
	夏実績		T				名称		29 年度(実績	30 年度(実績)	31 年度(実績)	2 年度(実績)	3 年度(見込)
臨床心理士を公立保育所に派遣し、支援を要する児童の行動観察、保育 士への助言・指導及び必要に応じて保護者面接を実施。 4保育所に月1回、年12回、合計48回 臨床心理士を派遣。 午前中、児童の行動観察 午後、保健師への助言・指導及び必要に応じて保護者面接を実施。 全体研修会を1回実施。						ア	路床心理士派遣 		-	-	-	48	48
						1							
3年度計画 2年度同様に臨床心理士からの指導内容を適切に保育業務に活用して いく。					ゥ								
					Ι								
②対	② 対象 (誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等					⑤対	象指標(対象の大きさを表す指標)						
特	別な支	援を要	要する児童			<u> </u>	名称 :	単位	29 年度(実績	30 年度(実績)	31 年度(実績)	2 年度(実績)	3 年度(見込)
					ア	保育所からの相談児童数(延べ人数)	٨	-	-	-	97	95	
					1	臨床心理士から支援の助吉・指導を受けた児童数(延べ人数)	٨.	-	-	-	46	45	
					ゥ								
						ェ							
- -								14 0 (III th) 0 1111					
			によって、対象をどう変える			⑥ 放:	果指標(対象における意図された対			100 左座/史结》	04 左座/史结\	0 左座(虫纬)	0 左座/目13)
■ 保	護者や るよう	関係機	機関と連携を図り、対象が少し Fにす	でも集団生活	舌になじんで		名称 :	単位	29 年度(美額	30 年度(実績)	31 年度(美額)	2 年度(美額)	3 年度(兒込)
""	867	71X IX 6	- ME 9 6			ア	行動に改善が見られた児童の割合	%	-	-	-	100	100
						1							
						エ							
						オ							
(2)	(2) 総事業費の推移 単位 29 年度(実績)	30 年度(実績)	31 年度(実績)	2 年度	(実績)	3 年	度(見込)
	投業		国庫支出金	千円			0 0		0		339		300
4.5		財·	県支出金	千円			0 0		0		165		150
入		内	地方債	千円			0 0		0		0		0
		訳	その他	千円			0 0		0		0		0

*原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価 2. 1 次評価の部 ①政策体系との整合性 □ 見直し余地はない □ 見直し余地がある 市の政策体系に結び付き、社会環境や住民ニーズ等を考慮した上で目的は妥当か? (評価理由) 支援を必要とする児童が集団生活になじんでいけるよう成長を促すことは、「子どもを産み、育てやすい環境 の整備」に結び付く。 目的妥当性評価 ②公共関与の妥当性 □ 見直し余地はない □ 見直し余地がある 市が事業に関与する必要があるか? (評価理由) 子育て支援に合致した事業であり、市が実施する事業である。 ③対象と意図の妥当性 ■ 対象・意図を見直す必要はない ■ 対象を見直す必要がある ■ 意図を見直す必要がある ・1枚目の②「対象」③「意図」は適切か? (評価理由) 特別な支援を要する児童を対象とし、対象児童が集団生活になじんでいけるよう成長を促す事業であり適切で ある。 ・対象を限定・追加する必要があるか? ・意図を限定・追加する必要があるか? ④成果の向上余地 □ 向上余地はない □ 向上余地がある ・成果を向上させる余地はあるかどうか?ない場合の理由は適切か? (評価理由) ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか? 臨床心理士からの指導・助言を保育業務に活かしており、向上余地はない。 ・何が原因で成果向上が期待できないのか? **有効性評価** ⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 ■ 類似事業と統合・連携ができる(類似の事務事業名: ・類似事業はないか、統合や連携はできないか? ■ 類似事業と統合・連携できない(類似の事務事業名: ■ 類似事業はない (評価理由) 類似事業はない。 ⑥事業費の削減余地 □ 削減余地がない □ 削減余地がある ・成果を下げずに実施主体の見直しによりコスト削減をできないか? (評価理由) ・実施方法の適正化によりコスト削減をできないか? 各保育所への派遣が月1回、年12回と最低限の実施であり、事業費の削減余地はない。 効率性評価 3. 改革・改善方向の部 (1) 改革の方向性(改革案・実行計画) (3) 改革・改善による期待成果 □ 見直し(□:目的妥当性 □:有効性 □:効率性 □:公平性) □ 統合 □ 継続 特別な支援が必要な児童への支援は、継続的に行う必要があり、引き続き実施していく。 維持 増加 削減 向上 成果 維持 (2) 課題、課題の克服の方向性 が起これを必ずの時間という。 対象児童に対しての、他機関(医療機関、児童発達支援機関等)とのつながりや就学に向けての対応などが課題であり、今後、これまで以上 に関係機関との連携を図っていく。 低下 4. 事務事業の2次評価結果(事業の総括と事業の方向性) (1) 1 次評価結果の客観性と出来具合 □ 記述説明不足(説明責任不充分) □ 評価内容が客観性を欠く □ 評価内容は客観的と言える (2) 2 次評価者としての評価結果 (5) 改革・改善による期待成果 ①目的妥当性 🔲 適切 🔲 見直し余地あり ②有効性 🗌 適切 🔲 見直し余地あり □ 適切 □ 見直し余地あり ④公平性 🔲 適切 🔲 見直し余地あり 維持 増加 削減 (3) 2次評価者として判断した今後の事業の方向性 (4) その他 2 次評価会議で指摘された事項 向上 □ 廃止 □ 休止 □ 目的絞込み □ 目的拡充 成果 維持 □ 事業統廃合 □ 事業のやり方改善 低下 □ 予算削減 □ 予算増大 □ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)